

- 関係法規 ○学習指導要領
- 埼玉県教育編成要項
- 埼玉県教育行政重点施策
- 指導の重点・努力点 等

## 学校教育目標

### 友愛 向上 自主自律

- ### 学校の実態
- ①教員は中堅層が少なく若手の授業力向上が望まれる。
  - ②特別な配慮を要する生徒が各学年に複数名いる。また、不登校生徒（令和6年度34名）が多い。相談室と学習支援教室で連携しその解消に努めている。
  - ③教育活動の効率化・質の向上のため、個に応じた学力向上とICT機器の積極的な活用を重点に取り組んでいる。

### 学力の課題（各調査から）

県平均値を下回れば赤字

- ① 全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに平均正答率が県平均を下回っている。  
国語:54(-1) 数学:47(-3)

- ### 授業改善の方針
- ICTの積極的な活用
  - 令和の日本型学校教育の実現
    - ・個別最適な学びの実現
    - ・協働的な学びの実現

②埼玉県学力・学習状況調査の正答率。  
※( )内は県平均

	国語	数学	英語
1年	63.5(62.5)	53.5(52.0)	—
2年	54.7(54.6)	47.4(51.5)	60.2(60.2)
3年	54.4(57.0)	52.3(56.7)	52.7(51.5)

### 研究主題

主体的・対話的で深い学びの授業の実践  
～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～

- ### 学習方略・非認知能力の課題
- （埼玉県学習状況調査質問紙から）  
・県平均値と比較した本校生徒の課題
- ①分からないところは、問題を解く前に諦めてしまう。
  - ②計画を立てることや計画に沿って学習を進めることが難しい。
  - ③授業で習ったことを使いこなす能力が低いと感じている。
  - ④学んだことを日常生活に生かしていない。
  - ⑤落ち着いた雰囲気ですべてに臨むことができない。

③埼玉県学力・学習状況調査の伸びた生徒の割合。全学年の国語・数学で、学力を伸ばした生徒の割合が県平均を下回っている。

※( )内は県平均

	国語	数学	英語
1年	81.2(83.1)	65.7(66.5)	—
2年	60.7(64.5)	74.9(84.6)	—
3年	71.8(74.5)	61.1(63.8)	83.3(81.8)

- ### 学力向上の重点
- ①デジタル学習基盤に土台とした自律学習の推進（授業改善）  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
  - ②情報活用能力の育成
    - ・基本操作（総合的な学習の時間）
    - ・情報活用（各教科）
    - ・プログラミング（数学、技術・家庭）
    - ・情報モラル、情報セキュリティ（総合的な学習の時間）

- ### 各領域等の指導の重点
- 総合的な学習の時間**  
○課題解決の学習過程の中で、多様な興味・関心をもち、自ら追究していける力を身につけさせる工夫
- ・課題設定の支援
  - ・多様な情報収集の整備
  - ・体験的な探求活動
  - ・整理、分析、試行の基本の定着
  - ・まとめ、表現の場の設定
- 道徳教育**  
○道徳的価値及び望ましい生き方について自覚を深め、道徳実践力を身につけさせる工夫  
○道徳の内容項目を要として、授業の充実を図る
- 特別活動**  
○望ましい人間関係を育成するための学級活動のあり方の研究と実践
- ・学級会 ・朝と帰りの会
  - ・給食指導 ・清掃指導
  - ・教室経営（エバーグリーン）
- 自主的・実践的な態度の育成  
○生徒の主体的な活動による学級集団づくり
- 特別支援教育**  
○基礎学力・生活力の向上  
○自分の言葉で順序立てて意見が言える力の育成  
○自立を意識した生活力の習得

- ### 具体的な取組計画(PDCA)
- 4月**（年度当初）
- 学校研究組織の体制づくり(P)
  - 教科部会で重点的取組の決定(P)  
「学力向上プラン」作成(P)
  - 【通年】ICTを活用した授業展開(D)
  - 【通年】個に応じた学習指導(D)
  - 全国学力・学力学習状況調査
- 5月**
- 埼玉県学力・学習状況調査
- 6月**
- 学校評価アンケートの実施・分析(C)
- 9月**
- 学力・学習調査の結果分析(C)
  - 教科部会で生徒の実態や変容に応じた課題解決プランの見直し(A)(P)
- 10月**
- 学校訪問・授業研究(D)
- 11月**
- 学校評価アンケートの実施・分析(C)
- 2月**
- 生徒の実態・変容の分析(C)
  - 次年度のシラバス・課題解決プランの見直し・作成(A)
- 校内研修【通年】**
- 授業を中心にICTの活用事例(月2回)
  - 学習指導と評価

- ### 授業改善の具体的取組
- 一斉授業から自律学習へ  
**授業改善＝子供の学び方改革**  
何をどの程度教えるのか →  
何をどのような手段で学ばせるのか  
**教員の役割の変化**  
分かりやすく教える →  
問題解決の方法を支援する  
★教員はファシリテーターとなり生徒をゴール（目標）に導く
- デジタル学習基盤を土台に授業を展開する。
  - 「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的な充実を図る。
  - 生徒一人ひとりが広い視野（自分とは異なる価値観や考えを積極的に受け入れ）を持って自分の思いや考えを表現する
  - 誰一人取り残さない単元ステージの計画を作成する。（1単元ステージ1～4時間）
  - 活動を通して、学習指導要領に記載されている「見方・考え方」を働かせる。
  - 仲間との意見交流を通して、他者の意見や考えを受け入れ自らの考えを深める。
  - 生徒が単元の目標を理解し課題に興味をもって自律的に取組む。
  - 自分自身の考えをまとめ、表現する。
  - 生徒一人一人が理解したことなど学びの成果と今後の課題を把握する。